

福祉情報誌

暮らしに役立つ、ちょっとわくわくすることがある、そんな情報を贈ります。

平成23年8月16日(毎週火曜日) 増刊 AJU通巻10120号

昭和54年8月1日低料第三種郵便物認可

発行所/東海身体障害者団体定期刊行物発行協会

名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター4F

AJU自立の家

第113号

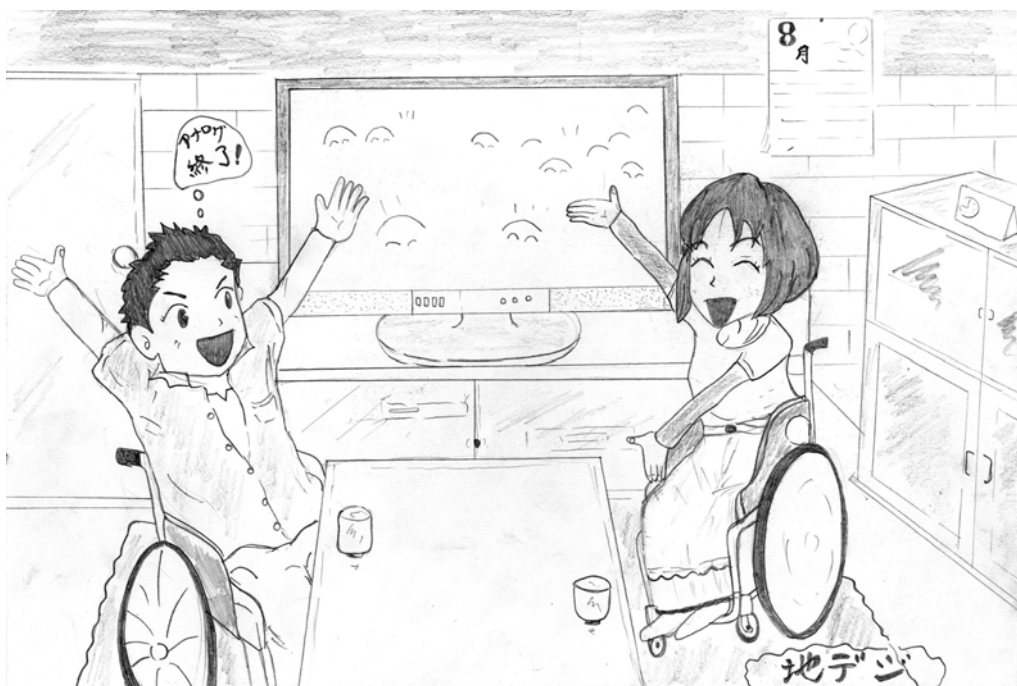
2011年8月20日号

定価**250円**

編集/社会福祉法人AJU自立の家
福祉情報誌発行委員会
発行/AJU車いすセンター
わだちコンピュータハウス
連絡先/〒466-0025
名古屋市中区下横町 1-3-3
わだちコンピュータハウス内
TEL(052)841-9888
FAX(052)841-1015
E-mail: f-joho@aju-cil.com

テーマ

チャンス
change
chance



絵 平良 隆志

はじめの一步をふみだしたあなたへ

- あなたの声に応えます
めくみの DPI 沖縄大会レポート.....1
第 27 回DPI日本会議全国集会 in 沖縄
参加レポート.....4
- ひと・活動紹介
クリスと亜紗美さん
障害当事者どうしの国際結婚.....8
- 大震災と障害者
熟年(?)“森パパ”の被災地レポ.....13
- かつきのページ.....17
- グルメな調査隊 第67弾.....18
ORI COFFEE オリコーヒー
上志段味店
- 旅の空から.....19
- トラベル情報.....22
北海道 道東4日間
ペナン・プーケットクルーズの旅6日間
リフト付き大型観光バスで行く
高齢者・介添えが必要な方にやさしいバスツアー 他
- 福祉用具のリサイクル情報.....24
- 読者のこえ・いろいろ情報.....25
ひかり鍼灸院 体・験・談!
第 27 回名古屋シティハンディマラソン
第9回障害者医療問題全国ネット・シンポ
第 15 回全国交流集会in大阪
車いすでGo! ぶどう狩り
あなたの町の歯医者さん
被災障害者支援のための募金の報告 他

めくみの DPI 沖縄大会レポート



林めくみです。2011年6月18日から20日までDPI日本会議全国集会 in 沖縄（20日はおまけの観光旅行）に参加してきましたので、皆さんに紹介したいと思います。

自己紹介

私は生まれつき右股関節亜脱臼のためカナディアンステッキを使って歩いていましたが、小5の時の髄内腫瘍摘出手術により胸から下の感覚を失いました。以後、手動車いすで生活をしています。

小学校から高校まではすべて普通学校に通い、日本福祉大学を卒業しました。卒業後、一般就職が内定していましたが不慮の医療事故により取り消しとなりました。現在、わだちコンピュータハウスで仕事をしています。

震災と離島の話に考えさせられた

学生の頃から障害当事者に関わる仕事や運動などに関心があり、機会があれば勉強をしに行きたい、声をあげたいという気持ちは常にあった。その矢先に今回の話を耳にしたので、申し込みをした次第である。

大会シンポジウムの中で一番印象に残っているのは、東日本大震災による被災体験の話だ。特に、福島県のいわき自立生活センターの小野さんの講演では興味深い話を聞くことができた。パネリストは東北地方で大地震が発生した時には福島県外にいた。そのため、原発事故発生情報が遅れて届いたと感じたという話である。その後、電気が止まってしまったために、一人暮らしの障害当事者のいる建物のエレベーターが使えなくなってしまい、当事者の方は身動きがとれなくなってしまったというトラブルや、カードキーが使えなくなりヘルパーが来られなくなってしまったという事態も発生したそうだ。

時代と共に人の力以外の便利な物やシステムが開発されてきて、私たちはそれに頼り切った生活をしているために、いざとなったら生活まで止まってしまうという今回の報告に少し怖くなった。もしかしたら、アナログ生活の方が都合のいい場合もあるのかもしれないと思った。例えば、施錠解錠に従来の鍵と鍵穴を使う建物ならば、電気の有無関係なく建物に入ることができる。

そうは言っても、全ての人にやさしい生活環境と自然との付き合い方は本当に難しい。世界中の永遠の課題かもしれないという思いが強くなった講演だった。

次に、沖縄県の離島問題である。沖縄県では離島への情報の遅れが問題になっており、最新の情報が行き届いていなかったために、本島に移った人たちは生活の仕方が分からないという問題が発生しているという話を聞いた。沖縄県の離島問題は新聞やニュースで知ってはいたが、今回なまの声で聞いて、深刻さが伝わってきた。

お隣の顔も名前も知らないという関係が増えてしまった現代では簡単なことではないと想像できるが、県や国の掲げている事と実際の福祉との矛盾を広げてしまわないように、政治家や行政には考えてもらいたい。



当事者の思いを形に

2日間のプログラムの中で「障害当事者のパネリストたちの思いをいかにして一般に浸透させるか」「障害当事者がどんどん外に出ることによって課題が見えてくる」という2つの言葉が強く印象に残った。

私は名鉄電車と地下鉄を使ってほとんど毎日一人で外に出るため、駅員の対応が悪い場面に良く出会う。その都度車いすの使い方や不便を伝えるようにしているが、「すみませんでした。」の一言で片づけられてしまうことが悔しい。研修を徹底してもらいたい。1 日目の懇親会で出会った、静岡県から参加されていた男性も同じ意見を持ってきて、話題を共有できた有意義な時間だった。そして、対応が悪いと大変困るということを知ってもらおうべく、私が不便と感じたことはどんどん伝えていこうと思った。

トラブルの中で感じたこと

3 日目は人のやさしさに触れた。

ホテルからツアーに参加しようと準備されていたバスが普通の観光バスで、車いす対応設備がなく入口のステップも狭くて途方に暮れてしまった。そこで、バス会社の方が気を利かせて一回り小さいバスを手配してくださったのだが、それでも乗り込む事が難しかった。やむを得ず同じバスに乗るお客さんに私を座席まで運んでもらえないかお願いをすることになってしまい、申し訳ない気持ちになったのだが、快く引き受けてくださった。2つの施設巡りと空港での降車を合わせてその乗り降りの動作は合計6回あったにも関わらず、最後までいやな顔一つせずに運んでくださって、本当に有難かった。

このトラブルは、バスを手配するときに私が車いす利用者であることを伝えなかったことも原因だと思うが、車いす対応バスがあるか尋ねたところで、そのバスが手配されてくるかはかなり不安だった。前日までのシンポジウムの中で、沖縄県は公共交通機関の発達が遅れていて、県内には各



駅停車のモノレールしかないと聞いていたからだ。このトラブルひとつだけではあまり説得力がないかもしれないが、観光客も多い沖縄県なので、一日も早く全土にバリアフリーな公共交通機関や福祉車両が普及して、障害者や高齢者も自由に、人の手を借りずに好きな所に出かけることができる環境の整備が普及することを望む。

また、私が泊まったホテルの部屋についてもトラブルが起こった。

泊まる予定にしていたホテルの部屋の状況を知るために、事前に私の車いすの幅を先方に伝え、洗面所やトイレ、お風呂が車いすごと進入できるか、幅の確認を依頼した。返事は、大丈夫だということだった。

しかし、実際は扉の幅が狭く、車いすのハンドリムに当たってしまう幅で進入ができなかった。当初の部屋はユニットバスであったためにそこに入れないと洗面すらできない状況だったので、急遽、部屋の変更をした。

運よく空き部屋があったのはラッキーではあったが、少し広い部屋だったので追加料金が発生した。私たちのミスではないのに・・・と、思わざるを得なかった。

変更した部屋もユニットバスではあったが、洗面台が別の場所にある部屋だったので、なんとか車いすのまま利用できた。ただ、車いすの足が入るような設計ではなかったので、前のめりの姿勢での洗面を余儀なくされた。

トイレとお風呂は車いすから降りて利用した。浴そうは縁が高くて入れそうにもなかったので、ユニットバスの小さな空間にシャワーのホースを降ろしてもらって、そこに座りこんで1日の汚れを落とすという状況だった。

沖縄県に限ったことではないが、ホテルにバリアフリールームを



設けてあれば、私たちは利用がしやすいし、観光活性化に繋がるのではないかと思った。

障害当事者のネットワークへ

最後に、私は障害当事者が関係する仕事やセミナーや講演会にとっても関心があるので、今回のような機会があったらまた勉強をしに行きたい。そして、障害を持った人同士のネットワークに加わっていくことができるよう、成長したいと思う。



第 27 回 D P I 日本会議全国集会 in 沖縄 プログラム

◆1 日目：2011 年 6 月 18 日（土）

＜特定非営利活動法人 D P I 日本会議 2011 年度総会＞

記念講演：「無自覚な差別・見えない偏見との対峙～あたりまえに向かって」

山城 紀子 氏（フリーライター）

懇親会

◆2 日目：2011 年 6 月 19 日（日）

＜第 27 回 D P I 日本会議全国集会 in 沖縄＞

全体会：「誰も排除されない社会へ～新しい障害者基本法と制度改革～」

＜特別報告＞「東北関東大震災 被災地からの報告」

＜第一部＞基調講演「新しい障害者基本法と制度改革」

東 俊裕 氏（内閣府障がい者制度改革推進会議担当室長）

＜第二部＞シンポジウム「新しい障害者基本法と制度改革の課題」

○パネリスト 東 俊裕 氏（内閣府障がい者制度改革推進会議担当室長）

森 祐司 氏（日本障害フォーラム政策委員長）

長位鈴子 氏（自立生活センター・イルカ所長） 他

○司 会 尾上浩二 氏（D P I 日本会議事務局長）

13：30～16：30 特別企画、分科会 1～3

特別企画 日本障害フォーラム（J D F）セミナー地域フォーラム in 沖縄

「インクルーシブな社会の実現に向けて～実効性のある条例つくるために～」

分科会 1 地域生活と地域間格差「地域生活と新しいまち・生活・ネットワーク」

分科会 2 教育「インクルーシブ教育制度への展開に向けた取り組みと課題」

分科会 3 雇用・労働「当事者の声と行動で創ろう！ともに働くための法制度」

第27回DPI日本会議全国集会 in 沖縄 参加レポート

私は本誌「マッチの子育ては大変だ！」に登場する仕事好きの忙しい旦那小島功（こじまいさお）です。現在はわだちコンピュータハウスで働いています。また本誌で「ここまで書くかお前は！個人情報だぞ！」というほど公開されているので何も書く必要はないが、自宅では這いずり移動でずっと寝ていれば車いすに乗った奥さんに蹴られ、外出時は方向音痴の電動車いすでさまよえば「おーいっ、こっち！」と怒られ、歩（長男坊主）を叱らないと「あんたは父親だろ！」と八つ当たりされます。趣味はパソコンいじりやデジカメ撮影くらいなど器の小さな男 48 歳・脳性マヒです。今回は 6 月 18～19 日と DPI 全国集会が沖縄市町村自治会館にて開催され参加しましたので、私の電動車いす利用者視点による沖縄観光など交えてレポートします。



参加の動機と狙い 沖縄に行ってみて～い！！

去年は地元で開催された愛知大会に参加して、障害者制度改革推進会議により当事者参画で新法制定を目指し、国連の障害者差別禁止条約批准に向けた国内法整備などにも取り組んでいる社会状況にとても関心がありました。一方で昨年、職場の仲間がヘルパーさんの計らいで沖縄旅行に行った話が羨ましく、本誌の記事になったタイ旅行などどこに行くにしても疲れ切った身体でリフレッシュできないまま帰ってきて、気が滅入ってしまうことが何度もあり、仕事や絶えない母子バトル？の家庭生活から、たまには現実逃避して自分が本当にしたい旅行への思いを馳せているところに、今回 DPI 全国集会が沖縄で開催されると聞き、これは千載一遇のチャンスと捉え参加しました。

集会の流れと感想 今後の運動へのヒントを！

1 日目（18 日）は午後より DPI 総会が開かれ、障害者制度改革推進会議の動向や、ロードマップ（いずれも年度で H23 障害者基本法の改正、H24 総合福祉法の制定、H25 障害者差別禁止法制定及び権利条約の批准）がメインの内容でした。また、世界規模の障害者団体である DPI 世界会議が、今年は南アフリカ共和国で世界大会が開催されるとのこと。そして、全国各地で障害者差別禁

止条例が制定されたり審議中であつたり、沖縄でも制定に近いとの報告や、中京都構想など地方分権の流れの中、福祉制度やサービスの地域格差が広がる懸念も見逃せない点だと感じました。

その後、沖縄在住フリーライター山城紀子氏による基調講演でした。彼女は数少ない女性新聞記者として、平等に働いても昇進昇給がなく、会社自体は何ら差別を感じないことが一番の問題であると言っていた。ここまでの発言は違和感ないが、取材を進める中、ある盲老人ホームを取材され入居者のコメントとして「高齢になると普通の暮らしが難しい、専用のホームで気楽に余生を暮らしたいから入居を決めた、ここは暮らしやすい」。それに対して彼女は「やはり専用専門の生活環境があった方が暮らしやすいの。みな差別のないインクルーシブな社会には賛成するけど現実が違うのよ…」などなど入居施設肯定のコメントがあり、



DPI は当事者団体なだけにこれは消化しきれない。それに私は「長年施設にいたから社会で通用しない障害者になってしまう」というギャップを味わってただけにちょっと許せないと歯ざしりする。講演の最後に「沖縄は基地問題など国の施策に翻弄されてきた。私たちのことを私たち抜きに決めないでとの思いを大切にしたい」とのコメントによりようやく落ち着いた雰囲気。だが、「あなたも自ら手を挙げて意欲的に老人ホームへ入居しますか?」「精神障害者の社会的入院はどう捉えますか?」に対する返答を機会あれば訊いてみたい気がした。そして、夜の懇親会は、沖縄ダルクの仲間による演奏や沖縄舞踊などの中、被災障害者として名古屋で避難生活をされている小松さんと彼が仙台に戻ったら拠点作りをし、「名古屋と往来できる関係になりましょう」という話になりました。

* *

明けて2日目(19日)は、午前の特別講演で、CIL いわきの小野さん(28歳男性、頸椎損傷)による被災地報告があり、仲間が戸山サンライズ(東京)に避難した経緯や、被災時における自家発電や移動手段としての車に欠かせないガソリン確保の必要性、さらに原発事故により家族単位で介助者が離れていく無念さを訴えられました。

シンポジウムでは、現在障害者基本法改正審議中で「手話が言語の一つ」や障害の範囲の見直しでは「発達障害が盛り込まれる」など改善された点もあるが、関係省庁の圧力により、基本法改正の条文に「可能な限り」が17箇所追記され、「合理的配慮」がすべて「合理的な配慮」に置き換えられ、俗に言う霞ヶ関用語の散りばめに少しトーンダウンの印象が否めない。

午後の分科会では、地域生活と地域格差を選択。理由は障害当事者団体が行っている被災障害者支援では「避難所に障害者が見当たらず支援できない」のようなコメントが異口同音に報告され関心があったからだ。はじめに「CIL まんた」活動報告として、宮古島在住1名の障害者の地域生活を実現するため、初の障害者向けサービス拠点を3

月に起ち上げた。地域生活はもとよりヘルパーの概念さえ薄い地域でもあり、島意識が強くちょっとした情報が島中に素早く伝わる地域性を生かして若い子のヘルパー募集やCIL 主催行事参加を広めたいとのこと。いちばん驚いたのはヘルパー利用申請を役場にしたらなんと重度訪問介護 620時間/月が難なく認められ、ヘルパー人数が追いついていない状況。また、代表であり今回の発表者でもある長位さんは沖縄本島の「CIL イルカ」所長の長位鈴子さん(午前のシンポジスト)の旦那さんでご夫婦とも障害者ということで発表の後「今後の夫婦関係は?」など芸能人の記者会見っぽく冷やかされ、独自の穏やかな口調も宮古島人になりきっているようで面白かった。今後の生き方の参考にもなった(内緒…)



最後に「災害に強いまち・ネットワーク」について仙台「CIL たすけっと」の被災報告では井上朝子(ともこ)さんという脳性マヒの若い女性が発表した。CIL で会議中に被災して屋内が散乱したり玄関のガラスが割れたり、彼女の自宅では冷蔵庫などあらゆるモノが倒れたりして、足の踏み場もない状況。彼女独特の人を引き寄せる早口の熱弁から、テレビで伝わらない現実と迫力や恐怖感が伝わってきた。またバリアフリー仮設住宅と称して玄関のスロープ以外は普通の仮設住宅と変わらないお粗末さに呆れた。なお被災後すぐに駆けつけた避難所はバリア以上に避難住民一杯で車いす利用者は居場所がなくやむを得ず引き返したそうです。ともあれ自宅だったらどうなっていたか分からないが、日中仲間の揃ったCILで被災した

のが運良く、「被災時には多様なネットワークやコミュニティで支え合うことの大切さを痛感した」という話を聞く中で私は、CIL の位置づけや見直したい点などヒントを得ました。

沖縄観光 ここに琉球王国あり！

私自身ネットによる飛行機やホテル予約もセントレア離発着も沖縄行きも初めてのこと。電動車いすを搭乗機に寄せ、介助者同伴の手続きなど戸惑うことも多かったが、ネット予約でクレジットカード決済は便利だなと思った。また評判通りセントレアの利便性や沖縄那覇空港の利便さもほぼ同じだ。ゆいレール（沖縄の都市型モノレール）は那覇空港と直結されていて実際に乗って、今回の会場（沖縄県市町村自治会館）や有名な観光地の国際通りや世界遺産の首里城まで行けることはとても便利に感じた。そしてゆいレールのもうひとつ感動したのは列車とホーム間のスロープが駅員の操作で自動昇降する。なつかしいサンダーバード2号発進時の傾斜台と同じ仕掛けでした。また、観光地として有名な美ら海（ちゅらうみ）水族館や沖縄平和祈念公園へは公共交通機関は数少ないノンステップバスなどしかなく、ゆいレールがより延長されれば電動車いすでももっと気楽に旅行ができるのと思った。



最終日（6/20 月）は国際通りをゆっくり観光しました。この通りは飲食店と土産店が凝縮された街で、本通りだけでなく枝葉のようにアーケードが伸びている街並みだ。多くの店とくに土産店は電動車いすでは入ったら出られず、どの店も同

じスペースなので店先にあるモノやそこから見えるモノしか選べない。でも何軒もあり品揃えも少しずつ違うため土産選びにはとくに不満を感じなかった。中でもアーケード街を散策中に店のおばちゃんがとても気さくに話しかけてくれて何かと楽しめた。また、沖縄発前に空港の土産店で、あの有名なロイズのお菓子などあって品揃えもよく、一箇所で買えるのはやはり便利だなと思いました。

2日目の分科会後 16 時半より首里城に私たち名古屋からのご一行様と静岡の仲間らで出掛け、最寄り駅までは良いが、駅から首里城まで歩く距離はかなりあり、城自体は見晴らし良い高台（もはや山腹？）にある。そのため、段差こそ少ないものの、電動車いすの幅ぎりぎりの歩道や勾配のきつい坂道が延々と続き、券売所に着いたと思えば、城内は簡易エレベーターや階段昇降機などいくつも乗り継いで一巡するコースになっている。見学が終わり、御庭（宮殿広場）から眺める正殿（メイン宮殿）の壮観さ、朱塗り建築の美しさは圧巻であった。「ここに琉球王国あり」をひしひしと体感して、皆で記念写真をと閉館時間（夏期 19 時）で観光客のいない首里城正殿をバッチリ！！私デジカメ小僧は大変満足できたし、道中の疲れが吹き飛んだ瞬間だった。ちなみに入館料大人ひとり 800 円ですが、障害者手帳提示で介助者とペアで無料でした。

宿泊は2泊とも会场上階の「ホテル東急ビズフォート那覇」のツインを予約。12F の部屋に案内され、電動車いすを置けば、トイレも入れないほど狭い部屋。クレームをつけ最上 14F のほどよく広い部屋に案内されて事なきを得たが、バス・トイレは普通にユニット型で手すりもなく、1泊目はヘルパーさんの介助でシャワー入浴、2泊目はその意欲すら湧かず諦めた。とても暑い沖縄だけに入浴は捨てがたいので、バリアフリールームを予約すべし。ただこのホテルの特徴としてベランダに電動車いすごと出られて沖縄の街並みが眺望できたのは、ちょっとリッチな気分になれた。

会場内はバリアフリートイレがあり、外出時はゆいレールの各駅にトイレがある。また、飲み物自販機は至る各所に設置されており、暑さへの配慮がなされているようだ。

初めての沖縄で楽しみにしていた青くきれいな海は、那覇空港4F 展望台か、昼食で「あぐー豚のカツカレー」を食べたレストランなどでしか見られず残念でした。それでも、固有な風情や南国情緒が楽しめ、気分転換にはふさわしい観光地、ホテルマンも駅員さんや多くの店員さんも「かりゆし」を着ていて、思わずそれが着たくなる気分になり空港で安く買いました。なお個人的に食べ物はラフテーと肉味噌焼きそばや、酒は飲めないのでマンゴージュースなど新鮮で美味しいと思った。



障がい者制度改革推進会議

目的は、「障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備」、障害者差別禁止法や虐待禁止法、インクルーシブ教育への転換、「自立支援法」に代わる「総合福祉法」など「改革の集中機関」として、検討の場。そして、障害当事者、学識経験者らで構成され当事者を中心に政策立案に当たる。また、構成員の半数以上が障害当事者やその家族で占め、とりわけ、知的障害・精神障害の当事者が参画していることは、これまでにない大きな特徴。

障害者差別禁止法・条例

「障害をもつ人への差別を禁止し、権利を確立する法律（素案）」（通称：障害者市民案）

DPI 日本会議が参加している「障害者政策研究全国実行委員会」では、障害者差別禁止法の制定を目指し、継続的な検討作業を継続中。

障害者権利条約

あらゆる障害（身体障害、即ち肢体不自由、内部障害、視覚障害、聴覚障害、精神障害及び知的障害等）のある人の尊厳と権利を保障するための国際的な人権条約。

重度訪問介護

長時間介助や見守りが必要な（障害程度区分4以上の）重度障害者のための生活介助制度。ヘルパー事業所側も事業所認定が必要だが、数少ない。

社会的入院

医学的には入院の必要がなく、在宅での療養が可能であるにもかかわらず、ケアの担い手がないなど家庭の事情や引き取り拒否により、病院で生活をしている状態。高齢者の寝たきりや精神障害者の社会復帰の障害を作り出す一因でもある。



クリスと亜紗美さん

障害当事者どうしの国際結婚



5月5日に結婚した石川亜紗美さんとクリス。障害当事者同士で、しかも日本とフィリピンの国境を越え、出会いから4年を経てゴールインされました。お二人はどのように愛をはぐくまれて、結婚に至ったのでしょうか。恋愛と結婚をめぐるエピソードを伺いました。

新郎：クリストファー・ジョセフ・アブリアン（愛称クリス）

Christopher Joseph N. ABRIAM

フィリピン、ヌエバビスカヤ 出身

肢体不自由（シャルコー・マリー・トゥース病）

電動車いす使用

新婦：石川亜紗美 Asami Ishikawa ABRIAM

視覚障害（強度の弱視）、愛知県半田市出身



二人はどこで出会いましたか？ どちらからどのようにアプローチ

2007年、名古屋シティハンディマラソンのアジア招待選手として、彼が来日したとき、私は通訳ボランティアとして参加して、そこで初めて出会いました。マラソンの2日前の夜、私が働く人の家（宿泊施設）に到着したとき、彼から話してきました。自己紹介をし、その場で色々話したことを覚えています。周りで英語ができる人がほとんどいなくて、ちょっと心細かったところに、私がたまたま英語ができたのと、同年代だったこともあり、話しやすかったみたいです。彼はそのときから、私のことが好きだと感じていたらしいのですが、1週間で国に帰らないといけなかったので、



友達以上にはなれないだろうと思っていました。

そして、名古屋港水族館の見学、招待選手の歓迎会、マラソン当日と、一緒に過ごす中で仲良くなりました。マラソンの後の打ち上げパーティ

が終わり、私はここでさようならかなと思いました。が、クリスが「明日の夜のさよならパーティに来て」と言いました。私もちょっと名残惜しかったので、「仕事があるけど早く終わったら行きたいな」と、帰国前日のさよならパーティにも、参加しました。

ほんの丸2日と数時間一緒に過ごただけでしたが、私たちはお互いの国のこと、障害のこと、仕事のこと、学校での経験、日本の文化のことなど色々話をしました。私は、毎年、ハンディマラソンに参加して海外の参加者と交流を楽しんでいましたが、クリスとはとても気が合う感じ。特別な感情ではなかったのですが、これからも連絡をとりあっていきたいな、いつかフィリピンにも遊びに行きたいな、と思いました。約束通り、彼は帰国後すぐにメールをくれ、それからメールで連絡をとりあいました。

どのように愛をはぐくまれたのでしょうか？

その後もメールで話をしていて、彼から「フィリピンに遊びに来ない？」と言われました。私も

「いつか行きたいな」から、「現実的に行きたいな」という気持ちになり、2008年6月に大学の後輩と二人でフィリピンに1週間、遊びに行きました。一緒に海に遊びに行ったり、彼の家族にも会い、もっと仲良くなりました。その後、メールやスカイプ（Webカメラやマイクを使い、インターネット越しにテレビ電話のような会話ができるサービス）などで頻繁に話をするようになり、彼から告白されました。ちょうど、ハンディマラソンで出会ってから1年後に、付き合い始めました。

始めから遠距離だったので、私たちのコミュニケーションはスカイプ、会えないのが当たり前。一緒にご飯を食べるとか、旅行するとか、普通のカップルがするデートみたいなことはできません。でも、スカイプでは時間の合うときは、ほぼ毎日話していました。お互い、遠距離のマイナス面を考えたって仕方ないので、遠距離でも関係が発展できたら自信になると思っていました。

Q. 彼に好かれたところは？

私が英語を話せたので、色々な話ができたと

と、親切で一緒に居て居心地がよかった、そして、「あさがきれいだから」と言っています。

Q. プロポーズの言葉は？

2010年の12月、私はフィリピンに行き、クリスマスとお正月を彼と一緒に過ごしました。一緒に過ごす時間がたくさんあり、お互いの気持ちや将来のことについて、いろいろ話をしました。その時は、結婚については、いずれはしたいけれどまだ先と考えていましたが、日本に帰った後、また二人で話をし、お互い結婚したいという気持ちになり、二人で決めました。

Q. 当事者同士で一緒に生活するという不安はありましたか？

これまでも、福祉サービスや周りの人たちからのサポートを受けながら、私は日本で一人暮らしをしていました。なので、二人でも何とかやっていけると思っていました。もしフィリピンで暮らすとなったら、そうはいかないと思いますが、

日本では、障害の重い人たちも、社会の資源を

英語がたんのうな亜紗美さん

幼い頃から目が見えにくい状態でしたが、地元の一般の学校に通いました。高校のとき福祉に興味をもち、日本福祉大学に進みました。

Q.

英語はどこで覚えたの？

英語は、中学の後半から好きになり、NHKのラジオ講座を聞いて趣味程度に勉強していました。そして高校3年の夏、視覚障害の若者対象のカナダツアーに参加したのをきっかけに、もっと英語でコミュニケーションできるようになりたい！と、本気で英語を学ぶようになりました。大学時代は、カナダでの研修プログラムやフィリピンの植樹ツアーに参加、海外からの学生と交流したり、ダスキンの海外研修にも参加しました。そんな中で、日常的に使う英語を身に付けていったように思います。

クリスと出会ったときは、既にある程度は英語で話ことができました。でも、付き合っているときは、日本語ではこう言いたいんだけど……、英語ではうまく表現できなくて、もどかしいこともありました。今は、お互いのことがよくわかっているので大丈夫ですが、最初の頃は、言葉の壁を感じました。でも、それを言い訳にしなくなかったので、伝えようという気持ちは大切にしようと思っていました。辞書で調べてどう表現したらいいのかな、と考えたり、わからないときは、どういう意味？とわかるまで聞くようにしたり。その積み重ねでよくコミュニケーションできるようになってきたと思います。

活用しながら自立生活しています。私たちも、自分たちだけで難しいことがあれば、先輩たちに相談したり、一緒に話し考えていけばのりこえていけると思います。なので、当事者同士ということで特に大きな不安はないです。



実際に暮らしてみてどうかというと、今はまだフィリピンで家族やお手伝いさんがいる中で生活しています。お互いできることできないことが違うので、二人でカバーしあい、二人とも難しいことはお手伝いさんをお願いしてやっています。例えば、彼が靴を履くときや、高い所の物を取ったり、蓋を開けたりなどは、私が手伝います。また私が見えない部分は、彼が見たり口で説明してくれます。

Q. フィリピンで暮らす不安は？

フィリピンで結婚しましたが、短期滞在です。クリスの日本在留資格の許可とビザが取れたら、日本で一緒に暮らす予定です。フィリピンの彼のところへは3回目で、短期なので、特に不安はないです。

Q. 結婚にあたって親戚の反応はいかがでしたか？

私の両親は、何事も私が決めたことを尊重したという考えを前からもっていました。なので、結婚の話をしたときも、二人が納得して決めたことならいいと、同意してくれました。ただし、フィリピンで暮らすのは心配が大きいので、日本で暮らすことを条件に。

Q. 結婚が決まったとき、どんな気持ちでしたか？

お互いの両親も合意してくれ、正式に結婚が決まったときは、ほっとしました。でも、いざ、国を越えての結婚となると、どちらの国で結婚するか、結婚のプロセスも違いどんな準備が必要か、ビザや在留資格のこと、わからないことがたくさんあり、それらを一つ一つ、調べ、考えなくては いけませんでした。最初は、どうなることやら・・・と思いましたが、わからない分、色々調べて最終的にはよい選択ができたと思います。

Q. 結婚式の様子、エピソードは？

私たちは、シンプルな結婚式がよいと思い、教会での盛大な式ではなく、自宅で市民スタイルの結婚式をやりました。フィリピンを選んだのは、彼が結婚のために来日することが、ビザの関係で難しかったからです。

結婚式は、自宅で家族中心のアットホームな感じでした。式には、大そうにも市長が来て私たちの結婚を認めました。(フィリピンで正式な結婚には、法的権限をもった裁判官、牧師、市町村長の立会が必要のため)



当日は、シンプルな式とは言え、最初は緊張しました。市長から、「夫婦になるとは」のありがたいお話しの後、「今から質問するので教えてください」と言われ、「どんなこと聞かれるのか？」とドキドキしました。それは、夫婦としての責任についての話、すべて「はい」と答え、それにより宣誓をし、結婚証明書に署名をし、正式に夫婦になることができました。その後のディナーには、親戚や友達（家族の友達もたくさん）が、次から次

へとやってきて、和気あいあいと、とてもにぎやかでした。総勢 140 人も来たらしいです。



こちらに来て、初めて海外に住んでいる彼の兄弟にも会い、たくさん親戚の人たちにも会いました。みんなあ

たたかく受け入れてくれて、私もアブリアン・ファミリーの一員になり、こんなに家族のつながりができたんだなあと、何だか不思議な感じがしました。

フィリピンでは、家族と一緒に生活しています。両親、一番上のお姉さん家族と私たち夫婦の 7 人、そして住み込みのお手伝いさんがいます。日本では、二人で生活する予定です。

Q. フィリピンではどのような生活をしているの？

今は、日本で暮らすための配偶者ビザを待っている間、フィリピンに滞在しています。日本へ行く準備をしながら、フィリピンの文化や言葉を習い、のんびりした生活をしています。フィリピン料理や、日本料理をフィリピンにある材料を駆使して作ったり、親戚の集まりに出かけたり、家族のファームに遊びに行ったり、時々、観光地や地元のお祭りに行ったりしています。また、視覚障害の生徒 3 人に、英語と音声コンピュータを教えるボランティアをしています。彼らは、地元の小学校の特別支援学級に通っていて、クリスの父親が市の教育長のような立場で学校とのつながりがあったこともあり、学校も快く協力してくれました。私たちがフィリピンにいた間に、彼ら自身でコンピュータが使えるようになることを目指して、帰国後もできる形で応援していきたいと思っています。



Q. 新婚生活を始めて文化や生活習慣の違いに戸惑うことは？

クリスとの関係ではありませんが、フィリピンでは、日本のように、一人で気軽に外出するのが難しいです。いつも誰かと一緒になければ、買い物も散歩も行けません。道や建物がアクセシブルではないし、言葉の問題や治安の問題もあるため、障害者でなくても外国人女性の単独行動は避けた方がよいのです。なので、日本での自由で便利な暮らしと比べると、ちょっと窮屈に感じる部分はありますが、家族やお手伝いさん、近所の人が手伝ってくれるし、今はフィリピンなのでその状況は仕方ないかなって思っています。

Q. フィリピンの福祉制度は日本と比べてどう違いますか？

フィリピンと日本では、福祉のシステムがまったく違います。

個人レベルでは、障害者年金や手当はなし。政府の医療保険はありますが、多くの障害者は加入していません。入ったとしても、医療費は無料ではなく、多くの障害者が貧しいので医療費が払えない。ちなみに、クリスもメリットがないと言って加入していません。障害者手帳はあります。手帳で受けられるものは、公共交通機関、ホテルや飲食、医療費などの 20% の割引があります。ただ、この法律が十分知られていないので、その都度、説明し交渉しなければいけないことが多々あります。彼がマニラの大きな病院に行ったときも、病院側がこの制度を知らず、説明しましたが、割引は適用してくれませんでした。

ヘルパー制度もありません。障害者のほとんど

は、家族や親せきと一緒に暮らしており、できる限りは家族がサポートしているようです。お手伝いさんがいる家庭も一部ありますが、ヘルパーとは役割が違うので、家事やちょっとした用事は頼めても、当事者の自立生活をサポートするヘルパーの

ような存在にはなりにくいです。

Q. 生活が落ち着いたらどんなことをやっていきたいですか？

生活が落ち着くまでには、まだたくさんのステップがありますが、地域の子どもや様々な立場の人たちと出会い、フィリピンの文化や障害者のことを話し交流していきたいなと思っています。また将来、障害のあるフィリピンの若者と日本の若者・障害者との交流を橋渡しできるような活動ができたらいいなと考えています。あとは、クリスと一緒に日本の色々な所を旅行したいです。今までは遠距離でそういうことができなかったけれど、近場でもすてきな場所は色々あるので、一緒に楽しみたいなと思っています。

Q. クリスはフィリピンでどんな仕事、活動をやっているのですか？



私は、2006年から2009年まで、障害者団体で活動していました。そこで、私はビジネス部門のマネージャーとアドボカシー（権利擁護）のプロジェクトコーディネーターとして働いていました。2009年8月末から2010年7月まで、ダスキンのアジア研修生として日本で研修しました。帰国後、大学や高校のセミナー、障害者のグループなど色々な所に参加して、日本での経験を話す機会があります。あとは、あさみと一緒に、ボランティアとして、私の地元の町の小学校に通う視覚障害の生徒たちに、英語と音声パソコンを教えています。

Q. フィリピンの障害者運動は日本と比べてどんな感じでしょうか？

私の印象ですが、フィリピンの障害者運動は、障害者の仕事の機会作りやアドボカシーに力を入れています。しかし、どちらの領域も、まだまだ改善が必要です。

私の意見ですが、全国レベルから草の根レベルの団体まで、ある程度のネットワークがありますが、優先課題の違いやコミュニケーションの問題などから、あまり連帯していません。また運動は、視覚、聴覚、肢体など、障害の種別ごとに行われている場合が多いです。

Q. 来日後の仕事、活動の予定は？

日本ではあさみの地元の町に住む予定です。生活が落ち着いたら、自分に合った仕事を見つけないと思います。同時に、私の国のこと、特に障害者のことについて伝えていけたらと思っています。日本の障害者運動にもかかわって、もっと色々なことを知りたいです。そして将来、フィリピンの障害者運動、特に私の地元で何か運動に関わり、力になればと思っています。また、機会が得られたら大学院で学びたいと思っています。

Q. クリスは日本での生活を始めるにあたっての迷いや葛藤は？

もちろん不安はあります。以前、どこで暮らすか考えたときは、住宅のアクセシビリティや交通機関のこと、生活環境など、色々な心配がありました。しかし、あさみがいます。彼女の家族も私たちに対し協力的です。今も不安はありますが、障害者サービスや制度が日本人と同じように利用できることを知り、それらをうまく使いながら、一つずつ工夫し乗り越えていけば、何とかやっていけるのではと思っています。

私が日本で暮らすことについて、私の家族は、私たちの決めたことを尊重してくれました。3月に東北大地震が起きたときは、特に家族は日本に行くのを辞めた方がよいのではないかとはいいましたが、私はそれについては心配ではありません。



『熟年(?)“森パパ”の被災地レポ』

みなさ～ん。こんにち。気がつけば8月がもう終わりですね。今年の夏は去年よりも早く暑なり、ホントにまいりました……。9月になっても、まだ当分暑さは続くんでしょうねえ～。トホホ。でも、やっぱりアツツイ夏は、ビールが一番！という“でつ”です。

さて今回は、相方の森パパ（以下、パパ）が6月20日から「被災地障がい者センターいわて」（以下 センターいわて）で健常者のスタッフとともに支援活動して、26日に名古屋に戻ってまいりました。その報告と今後の活動でできそうなことについて、夫婦の対話形式でお伝えしたいと思います。



“パパ”は、脳性まひ（アテトーゼ型）で不随意運動（自分の意志とは関係なく身体が動いてしまう等）があり、外出時には、電動車いすを使っています。

1週間分の着替えをもって！

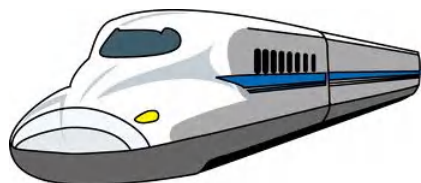
『障害当事者が直接支援をしようという取り組みで1週間、東北の被災地へ行ってくるわ。何ができるのかわからんし、障害当事者が1週間支援に行くというのは、僕が初めてらしく、体力的にも心配。だけど、障害当事者が行くことで被災した障害者の生の声を聞いたり、とにかく地元の障害当事者が元気になってくれればいいなあ』とパパは、岩手に行きました。“でつ”は、しばらく独身生活です。



そして、1週間後……。

でつ: お帰り。どうだった？

パパ: 疲れたわ！でも、あっちは涼しかったよ。行きしなのこと、盛岡駅に到着して駅員さんに道を尋ねると、岩手では6月で一番暑い日だったらしく、汗いっぱいいて道を説明してくれたんだわ～。それでも30度くらいだったと思うよ。新幹線の中から見た光景は、大宮駅が停電の影響で暗かった。そんで、福島を過ぎたくらいから瓦屋根の家屋がところどころ壊れていて、ブルーシートが目立ってたわ。



初日 6月20日（月）の行動

8:40	新幹線 名古屋～東京(10:50)経由
14:15	盛岡駅に到着 盛岡駅から徒歩15分ほどで「センターいわて」に到着
14:40	街の散策 トイレさがしなど
19:30	報告会 当日の支援内容と課題。翌日の支援内容など。
22:10	ホテルへ

「センターいわて」での活動って！

でつ: 「センターいわて」って、どんなことやってるの？

パパ: うん。「センターいわて」（写真）は、専従スタッフ5名と全国からボランティアが集まり、被災



沿岸部を中心に被災した障害者を支援する。僕のいったときは、僕らのほかに埼玉、静岡、三重からボランティアとしてきてたよ。その中には女性の障害当事者もいた。主な活動は、支援物資を届けたり、ボランティアでの介助者を派遣したり、移送サービスをしたり、さまざまな支援活動をしているんだって。そんでも、センターいわてではトイレとお風呂の利用が難しかったので最寄りのホテル（東横イン）に泊まることにしたんだ。

でつ:で、街の様子は？そして人々の様子は・・・？

パパ:そうだな。こっち（名古屋）で、当たり前なことが、当たり前でない。センターいわての人たちに「お昼ご飯の買い出しに行ってきますよ」というと「大丈夫ですか？」と言われるし、街に出かけた時の子供の反応が面白かったよ。「あの車いす、勝手に動いている」きっと電動車いすは見たことがないんだろうな？？街に出かけていっても、障害がある人にまったく会わなかった。病院にスロープがついてるのに、お年寄りしか利用してないのかなあ？

でつ:そんで、パパはどんなことをやってきたの？

パパ:この後に続けて支援に来る障害当事者に役立ててもらおうとの思いで「トイレマップ作り」に取りかかった。車いすトイレ探しだわ。公共施設（土地改良事業団）のトイレを借りたけど事務所は暗いし、公園にも車いすトイレがあったが照明は消されていた。次の日は整形外科のトイレを見せてもらった。それから遠野のセンター準備室の視察。

でつ:遠野って、カッパの有名なところ？

パパ:そうそう。移動中の車の中から、緑がきれいだし、澄んだ水がさらさらと流れる川があって、ホントにカッパが現れそうだった。ふっと、「支援している」という現実を忘れてしまったくらい。そしてこの準備室の場所は、遠野市宮守。JR釜石線 鱒沢駅（写真）の目の前にある。センターいわてのある盛岡から被災沿岸部への移動距離が、どこへ行くにも片道約3時間はかかってしまう。そのため、朝8時に盛岡を出発して、現地到着は11



時ごろ。19時のミーティングに戻るには現



（写真は遠野のセンター準備室）

でつ:ほかには？

パパ:うん。障害当事者スタッフの活動の拠点をセンターいわての近くにあるアパートを整備する準備に取りかかった。入り口やトイレや風呂等に課題があり、お部屋の改造方法も助言したり……。3日目はそのアパートへ行き、部屋の広さやドアの幅などを測る。その後、センターいわて事務局の熊谷さんと「障害スタッフの役割」、「街づくり」、「トイレマップ作り」、「C I L もりおか」との連携などについて話し合った。ここまでくると、少々疲れ気味だったわ〜。

2日目以降の1日の流れ

7:10	朝食（ホテル）
8:00	センターいわてに到着
	活動
18:00	夕食
19:30	報告会 当日の支援内容と課題。翌日の支援内容。
22:30	ホテルへ

被災地の様子。障害者の生の声

でつ:被災した障害当事者の方に話を聞くことは出来たの？

パパ:うん、5日目にね。被災者のお宅へ向かう途中、道の駅でトイレ休憩をして……。なんか、駐車場にはパトカー、警官も大勢いて、自衛隊もいるわで、まるで戦闘態勢のシーンのようで緊張してしまった。被災地の向かう途中で休憩をとっていたらしい。



僕がトイレから出て来た時に、車いすの人を見かけたので、近寄って声をかけてみたが、無視された。もう一度声をかけたら「おはようございます」と返事をしてくれた。脊髄損傷らしい障害の人で、手動車いすを使用。自分で車を運転して宮古から盛岡に向かう途中らしい。リハビリを兼ねてレ



クレーションをしに行くのだと言っていた。宮古市在住で被災にはあわれていないが、弟のご家族が亡くなられているのであまり会話したげではなさそうだった。名前など聞けなかったが、センターい

わての名刺を渡して別れ、道の駅をあとにした。そして宮古市に入った。瓦礫、倒れた電信柱、積まれた廃車の山、家の基礎しかない……。なにか身震いする光景が目飛び込んできた。そして、Aさんお宅へ到着。Aさんのところでは大歓迎してくれた。Aさんは、重複の障害、部屋に入っていくと笑顔で迎えてくれた。親御さんはヘルパー制度を利用し子供を自立させたいという思いはある。しかし、ご近所さんからはよく思われてない。ヘルパー制度を利用することに対して理解がなく、家族の介助が当たり前の状況。そして、津波の状況、母親の活動、家族の仕事など話は途切れることなく続いた。午後に障害者療護施設で働いているお姉さんも加わり食事をしながら施設の中のことやその他の話も出て本人も喜んでいた様子。最後にお宅の見学をさせてもらい、住宅改造の話で終わった。Aさんのお宅をあとに、また宮古市内の様子を見た。駅前

は津波の被害は受けていない。地形によってなのか、被害を受けているところと、受けていない所がある。被害を受けたところのあまりにも悲惨な状況に、ただただ茫然。これでまだ片ついている方だという。



「復興」ではなく「新生」に向けた支援を

でつ: 震災が起きる以前からの東北地方での障害がある人の暮らして、どんな感じなのかなあ？

パパ: 岩手の特徴は江戸時代から、お上にさからえない土地柄らしい。名古屋だと街を出歩いている障害がある人が、岩手県では「重度」だからと決めつけられ、施設や家庭に引きこもっているらしい。あと、公園のトイレは11月から3月まで閉鎖（雪のため??）と貼り紙がしてあった。それと、障害とは関係ないけど、水道管に水抜きする栓があること。



でつ: 「水抜き」って？

パパ: 「水抜き」っていうのは、不凍栓を操作して給湯器や水道管の水を抜く作業のことなんだって。東北地方は冬の間の冷え込みが厳しいため、水道管の中にある水が凍ってしまうらしい。

でつ: じゃあその冬期間は公園のトイレは使えないってこと……。それは困るわあ。

最終日 6月26日(日)の行動

9:30	新幹線 盛岡～東京(13:50)経由
16:00	名古屋に到着

パパ: 最終日。帰り道、盛岡駅では、中尊寺の「世界遺産登録記念イベント」をやっていた。なんか、複雑な気持ちだったわ～。沿岸部とのギャップを感じた。新幹線を乗り継いで名古屋へ。こっちはやっぱりあつつい。そして、帰ってきて思ったのは、みんな、「復興、復興」といっとるけど、復興じゃあなくて、障害当事者にとっては、新しい東北を創っていく「新生」の方が正しい言葉なのかも……。 「復興」はもとに戻ってまうだけで、これだとなんの意味がない。元に戻らない「新生」に進んでいけるように支援ができたらなあ。

我々にできること！

でつ:なんか、パパの話をきいとると、うちの小さいとき 40 年前に似とるなあ。うちらも、以前は「自立生活」っていう言葉も知らなかったし、ましてや、自立生活ができるなんて、思ってもみなかった。そんでも、先輩たちの当事者運動のおかげで、「もしかしたら、自立生活ができるかもしれん？」と思えたこと。そして、今は普通に地域で暮らしとるもんね。



パパ: そうだね。今のままだと、障害がある人が住みにくい街になってしまいそう。誰もが住みやすい街を障害当事者が参加して作っていかんかったら、意味がないと思うんだ。都市部の制度が進んでいる地域では、制度を要求し、制度を勝ち取ってきた当事者運動の歴史があって、そのノウハウを入れての街づくりをしていくチャンスなんだ。

地元の障害当事者だけでなく、街づくりのスペシャリストの多くいる JIL や DPI などと連携を取っていくことが必要なんだったと思った。でも地元がどう考えていくかが課題なんだけどね。そして若い障害当事者にとってもいちから運動をするチャンスかも……。今後 5 年ほど、東北に移り住んで街を変えていくことが必要なんじゃあないのかな。「障害があっても当たり前」に街に出かけたり、地域に暮らしたりできるよ」って伝えていくのも我々の役目だろうね。それに、岩手県では、愛知よりも早く、今年 7 月 1 日に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる岩手県つくり条例」差別禁止条例が施行されたんだ。この条例が後押し早急に「新生」に向けて進んでいくことを願って、決して、他人ごとにならないよう意識して、被災者と共に歩んでいかないと考えた。どうだろ、岩手に引っ越ししようか？？



「被災地障がい者センターいわて」周辺の車いすトイレマップ

- ① 被災地障がい者センターいわて本部
- ② 岩手県土地改良事業団体連合会
月曜～金曜の 9 時～17 時
1 階の扉の奥
- ③ ユイ・カワタカ
3 棟ある中のひだり奥
当事者スタッフ、スタッフの
宿泊施設
- ④ 盛南公園
夜間使用可能、ペーパーが必要
夜間は懐中電灯が必要
便器が幾分低い
- ⑤ おくだ整形外科医院
9 時～18 時 手すりが多く狭い



出張と竜宮城

堤 剋喜

子どもだからできる表現、許される言葉がある。
「僕は脳性麻痺でよかった。ガンじゃなかったから。もし、ガンだったら、死ななきゃならないもの。」
今だったら、とても言えまい。
ガンという病名を覚えたばかりのころ、
ひょっとしたら、このとき、ガンという語を初めて自分で使ったのかもしれない。
言った当人は、発言の中身も周りの様子もすっかり忘れてしまった。
言葉は誰かに伝わったとたんにその人だけのものでなくなる。
居合わせた人たちには、印象を残したようで、
「おまえがあんな強いことを言うとは思わなかったよ。」という形で、
言葉の部分だけは、折に触れて、「逆輸出」してくれた。
おかげで忘れた言葉を取り戻せたけれど、
学齢前に自分が言った(とされる)言葉を使って励まされるのは複雑な気分だ。
相手の頭にいる幼い子のほうが、目の前の僕より強く見える、そんな含意もとれるから。

父の仮通夜の時に、「お父さんはガンだったんだって。」と告げられた。
気が遠くなった。
母は自分も今知ったところだと思わせる言い方をした。
初めて聞く僕に合わせたのだろう。
患者本人へのガン告知は、タブー視されていた。父に悟られないように、
父の病名を知らされていたのは、母と長兄だけだった。

葬送に関する表現はまだ僕の語彙に入っておらず、式次第も知らなかった。
自分が特別な時を過ごしていることは感じた。
それをなんと呼ぶのかわからないままでも、時は過ぎていく。

通夜の日の昼間、祖母の家の広間にいた。
祭壇が用意され、見たことのない提灯や走馬燈などが飾られていた。
一番手前に布団が敷いてあり、父の遺体が横たわっていた。
だいたい、祭壇の正面に座っていた。疲れると父に添い寝する形で横になる。
起き上がるときは、まず、布団から離れるように寝返りを打った。
何回かやったはず。でも、誰もとがめなかった。
やがて、「お父さんの顔、もう一度見る？」と促された。
白い布がどけられる。昨晚遅く、臨終の時とさほど変わらない表情があった。
安らかとは言いがたい。自分から、「もう一度見せて」と、せがむことはなかったと思う。

「お父さんは出張に行っている、と考えましょう。」
どうにか元気づけようとする声に悪気はない。言葉の方は空回りしながらやってきて、
何とも応えられなかった。いや、空回りしたのは、きっと僕の方だ。
臨終に立ち会い、動かない遺体も見ただのに、生きていると考えるの？
出張って何？近所の小さな消防署のことを出張所と呼ぶのは知っているけど、と。
生前父が「出張で長い間留守だった」という経験、というか記憶が僕にはない。

竜宮城の昔話には、いろいろな要素が含まれるが、
証拠や目撃者のない水難事故が元になった部分もあるようだ。
もし、事故の様子を報告できる者がおらず、遺体も見つからなければ、
「家族や仲間が不意にいなくなった」とこととして、共同体にもたらされる。
そして、いつまで待っても戻ってこない。
この「不在」の理由を幼い子どもが尋ねる光景を思い浮かべる。
しぶしぶながら誰かが説明役になるが、その人も本当のところはわからないし、
密かに知らない方がいいかと思っていたりする。
語り手は目撃者のいない「最期の様子」を想像するのをやめて、
問われたとおり、「不在の理由」の説明に取りかかる。
聴き手の希望と事情に合わせて、語り手が説明していくうちに、たとえば、
「出張先は竜宮の改修工事の現場でね。大仕事片付いたら帰ってくるさ。」などと
とりあえず、結ばれることもあったろう。



グルメな調査隊 第67弾

ORI COFFEE オリコーヒー上志段味店
 場 所：名古屋市守山区上志段味字所下 1043-1
 最寄り駅：JR『高蔵寺』駅から徒歩 13 分
 ※ゆとりーとライン（バス）『東谷橋』下車、徒歩 3 分。
 TEL/FAX：052-736-5919
[http:// www.oricoffee.com/kamishidami/](http://www.oricoffee.com/kamishidami/)



名古屋市Tさんより

禁煙席と喫煙席があり、通路で分けられています。店内は明るく広くてご家族、カップル、友達同士で、食事とおしゃべりを楽しみながらゆっくり過ごせますよ。サラダの手作りドレッシングと、サーモンサンドがさっぱりしていて、とても美味しかったです！



★ ジャンル 喫茶店

オリコーヒーは 2001 年に、名古屋市天白区植田にオープンしています。本店植田店は、京都イノダコーヒーをネルドリップで楽しむことができる街中の小さな喫茶店です。対し、上志段味店は 2009 年 4 月にオープン。「北欧をテーマにしたメニュー作り、おくつろぎ頂ける空間にこだわった郊外型の大型店です。お気軽に遊びに来て下さい。」と店長の小里さん。

★ モーニング (7:00～11:00)

◆クロワッサン／トースト／ドーナツモーニング
 (お好みのバスケット+※1+※2) ……380 円

◆小倉トーストモーニング……………420 円
 (小倉トースト+※1+※2)

◆植田本店のモーニング……………525 円
 (ハチミツシナモントースト 2 枚+ポテトサラダ+スクランブルエッグ+※2)

※1 サラダ+ゆで卵

※2 ドリンクメニューの中から 1 つ ・コーヒー、紅茶 (ホット／アイス) ・ジュース (オレンジ／グレープフルーツ／アップル) ・スープ (クラムチャウダー／コンクリーム)

◎その他にも、キッズ、うさぎパン (380 円) オプションメニュー (50 円～おかわり?) 等があります！

★ ランチ (11:00～14:00)

◆月替わりパスタ (サラダボール+※1)

メニュー例／7 月：初夏のトマトソースパスタ、ヘルシーチキンとほうれん草のクリームパスタ……850 円

◆サンドウィッチプレート

(国産サーモン又は、てりやきチキンサンド+トマト・きゅうり・レタスサンド+ミニサラダ+スープ+シューモなか+※1) ……920 円

◆オリコーヒースタイルサンドウィッチ……850 円

◆ホットドッグ、ベークドランチ……………850 円

※1 ランチセットは、コーヒー又は紅茶付き

◎ プラス 150 円でデザート (手作り) がセット可

★ アクセス&店内の様子

入口：駐車場から緩やかなスロープ、開きドア (両側開放可で、片側ドア有効幅 84 cm)

店内：段差無し、平坦、床は自然の木材 (フランス製) 素材。禁煙席テーブル 46 席、喫煙席テーブル 34 席 (他、壁側に固定席あり)、イス移動可、テーブル高さ 71 cm (テーブル下 68 cm)

★ お手洗い

店内：広めの女性洋式トイレあり。引き戸、段差無し、扉有効幅 80 cm、片側手すりあり (向かって左壁側に L 字)。男性用は段差なし、入口 (個室扉) 幅 48 cm。



★ 駐車場 敷地内に 20 台 (敷地外に 15 台分)

★ 営業時間 7:00～19:00 (L.O18:30)

★ 定休日 なし

★ その他情報 貸切り有り (要相談)、予約 OK (バースデーケーキの予約もしています／要相談)

★ 福祉情報誌購読者特典

本誌又は当店掲載ページを提示の方、全品 50 円 OFF (次号発行時まで有効)

旅の空から

皆さん、こんにちは。いつも旅行情報を掲載していただいている(株) チックトラベルセンターの松本です。東北地方のあちこちから復興の声が聞かれるようになり、私たちは継続して東日本を応援し続けることが必要ですね。



1年のうちに何度か医療機器をご利用のお客様から旅行のご相談がありますので、今回は医療機器利用の皆様がどのように飛行機に搭乗なさるかをご紹介します。この場合、基本的には所定の用紙に医師から診断書を記入してもらい、提出する必要があります。

ストレッチャー搭載

今回のお客様はドラマ「北の国から」が大好きなお客様でしたので、北海道の富良野をメインとのご希望でした。富良野に一番近い空港は旭川空港なのですが、中部空港からのからの飛行機は1日1便のため、万ストレッチャーを搭載した飛行機が何かのトラブルで運航されなくなった場合、旅行の予定がすべて狂ってしまうので、あえて便数の多い新千歳空港

を利用することで航空会社との打ち合わせができました。飛行機にセットするス



ストレッチャーは航空会社専用のもので、日本では羽田空港で取り付け、取り外しが行われます。そのため座席を6席利用してストレッチャーをセットした飛行機は、羽田空港から通常の定期便としてあちらこちらに運航され、中部空港に来てお客様をお乗せし、新千歳空港へ飛びます。それまではその6席分の座席を誰も使用しないまま、飛行をしながら中部空港へやってきます。羽田から中部への定期運航便がないためこのような方法をとるわけです。

空港での動き

早めに空港へ到着なさったお客様は、搭乗手続きを済ませると完全リクライニング車椅子が用意されていますので、こちらに乗り移りをお願いしました。今までご利用になっていたご自身のストレッチャーは厳重に梱包して飛行機の貨物室に搭載されます。このためストレッチャーのサイズも

しっかり計測して報告が必要となります。中部空港からの飛行機は小型化されていて貨物室に入



らないサイズのストレッチャーや大きな電動車椅子などは断られてしまうこともあります。

飛行中は

ストレッチャーのまま飛行するのでベルトはちゃんと考えられていて、ちょっと大げさと思われるほどのベルトを締めます。とても残念なことです。ストレッチャーは規定のもので高さ調整もできないので、窓の外の景色を見ようにも見られないことが多いようです。機内で吸引機をご使用の方でしたので、事前に航空会社へ申告し、通信機器に電波障害が出ないものと許可をいただき、飛行中にご使用いただくことができました。



到着地では

到着してからは他のお客様が降りられた後のご案内となります。新千歳空港は空港の作りが悪くて到着ロビーへの経路にエレベーターの設備がありません。このため係員がこれから飛行機に乗る人が待っている搭乗待合室を逆ルートで案内してくれます。しかしどの航空会社も係員が責任を持って案内してくれますから安心して任せて大丈夫です。また特殊なストレッチャー仕様の車椅子などは、荷物を受け取るターンテーブルのところに出てくる場合が多いようです。これは空港の作りや設備によるもので、ご自身専用の電動車椅子も同じようにターンテーブルのところで受け取ります。一部の日本の空港や外国の空港では自分のストレッチャー型車椅子や電動車椅子がすぐ用意されてびっくりすることもあります。新千歳や沖縄の空港は軽量の折りたたみ車椅子以外は、飛行機の横に準備されることは少ないようです。これらは空港の構造や保安上の理由によることが多いので、可能な限り航空会社や空港へ皆様のご理解とご協力をお願いしております。

人工呼吸器の場合は



いつもは家庭のコンセントから電源をとっている人工呼吸器も旅行となると外部バッテリーを利用して旅行することになります。

呼吸器の機種にもよりますが、外部バッテリーの重さが1個8キロもあつたりして私も両手がちぎれるかという思いをしながら運んだこともあります。つい最近御一緒したお客様は私も驚くほど小型のバッテリー（1個で3時間）を使う「トリロジー200」というタイプでしたが、説明を受けてバッテリーの交換方法、夜間モードへの切り替えなど本当に進化したものでした。今回のご依頼はオ



ーストラリアのメルボルンへのご旅行でしたので、バッテリーは空港での手続きの時間＋飛行時間＋入国審査等＋乗り換え時間＋国内線飛行時間＋荷物受け取りという感じで、人工呼吸器に必要なバッテリーをいくつ持参していただくかをアドバイスしました。今は飛行機によってパソコン用の電源を装備している飛行機が多くなりましたが、これはあくまでもパソコン用で、万一何かのトラブルで電気が流れなくなった場合は、航空会社は一切責任をとってくれません。このためにも呼吸器のバッテリーはご自身でご用意いただく必要があります。

飛行中は

体の安定が保てない方でしたから、私がすぐ後ろの座席を使いマジックテープのついたボディベルトで座席の後ろからぐるりと体を固定して飛行していただきました。時々人工呼吸器がアラーム音を発していたのですが、リセットボタンですぐに音が止み、他のお客様は気が付かないようでした。バッテリーの交換など問題なくできました。また頭をベルトで固定するというご依頼でしたので、体と同じようにベルトで固定し飛行しました。

ホテルでは

体位交換などで夜中もサポートが必要な方でしたので、ご本人とヘルパーはツインルームを利用して夜のサポートをしました。付き添うご家族様は室内で隣の部屋とつながっているコネクティングルームを利用し、夜はぐっすり寝ていただきました。2時間に一回の寝返りと万一呼吸器が外れたり、異常アラームが鳴った場合に対処するように毎晩サポートが交代して休養できるようにしました。

このように1年に何回か医療機器ご利用の方からご相談や旅行のご依頼が入ってきます。皆さんが旅行へ行こう！という気持ちがあればいつでもご相談をお受けします。

今年も10月1日（土）～2日（日）に東京お台場のビッグサイトで旅博2011が開催されます。私はいつものようにJATA（日本旅行業協会）のバリアフリー旅行情報ブースで説明員を仰せつかっていますのでご来場予定の方は、事前に連絡して下さい。入場は有料なので無料ご招待券を差し上げます。

無料ご招待券の入手方法は簡単です。会場についてから090-5118-1821（松本）まで電話いただければ、入場口までお持ちします。枚数に限りがありますので会場にてお渡しいたします。ご了承いただきますようお願い申し上げます。

外国の観光局、航空会社、日本の大手旅行会社などが様々なプレゼント品を用意しております。また美味しい外国のスイーツや有名ホテルの得意メニューが安く食べられることもあり、朝早くから入場口に行列ができています。旅博2011に関する情報はネットで検索して下さい。

<http://www.tabihaku.jp>

9月29日から開催されていますが、一般の方が入場できるのは10月1日（土）と2日（日）だけですから注意して下さい。

ロンドン2012パラリンピック競技大会の入場チケット料金が発表となりました。

車椅子バスケットは予選 2,800円 決勝は3,800円、6,600円、8,400円の3種類。

ボッチャに関しては予選も決勝も2,800円で統一となっています。

水泳だけは午前と夜の部に分かれています。

午前の部は 2,000円、3,800円、5,600円
夜の部では 3,800円、5,600円、8,400円
なのでお寝坊さんはこちらをどうぞ。

※上記チケットの料金はロンドンパラリンピック組織委員会の発表により記載しております。今後予告なく変更となることがございますので予めご了承下さい。

（株）チックトラベルセンター ハートTOハートではこのパラリンピック応援ツアーを計画しています。

開会式と競技を組み合わせていますので、好きな競技をご覧ください。

北京パラリンピックでは、ツアーにご参加なされた皆様が他の国からの応援団と仲良くなられて、NHKや各国の放送局から取材を受けていました。今回のパラリンピック応援ツアーも楽しいものになりますように、ちゃんと下見をしてみたいです。

どうぞ、お楽しみに。

観光庁長官登録旅行業第735号

（株）チックトラベルセンター

ハートTOハート事業部

松本 泰守（まつもと やすもり）

ハートTOハートを担当して16年目

〒460-0003

名古屋市中区錦1-20-19 名神ビル6F

TEL (052) 222-7611

FAX (052) 212-2778

matsu@tictravel.co.jp



チックトラベル ハートTOハート**北海道 道東4日間**

秋の北海道は夏の景色とは違い、植物が色づいて、がらりと雰囲気が変わります。世界遺産知床や摩周湖などこの地方の観光はしっかりと落ち着いた雰囲気です。

期 間：10月8日（土）～11日（火）
料 金：ひとり 148,000 円（2名1室）
出発地： 東京・名古屋・大阪
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用

鹿児島満喫4日間

桜島、開門岳、指宿と人気の観光地がいっぱいの鹿児島へのツアーです。この地方や食べ物も豊かでおいしいん坊さんにもお勧めです。

期 間：11月11日（金）～14日（月）
料 金：ひとり 148,000 円（2名1室）
出発地： 東京・名古屋・大阪
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用

豪華ホテル・ブセナテラスに泊まる沖縄4日間

サミットも開催されたセレブに愛されるブセナテラスホテルに泊まるツアーです。癒しの空間とゆったりと流れる時間、一度は味わってみたい高級ホテルです。

期 間：11月19日（土）～22日（火）
料 金：ひとり 168,000 円（2名1室）
出発地： 東京・名古屋・大阪
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用

ペナン・プーケットクルーズの旅6日間

シンガポールから出港するクルーズでペナンやプーケットを巡ります。船内ではカジノを楽しめます。波静かな海をぼんやり眺めて楽しむもよし、お茶やスイーツを楽しむもよし、楽しみ方はいろいろです。お食事がすべて含まれたプランでお得です。

期 間：11月5日（土）～10日（木）
料 金：ひとり 178,000 円
（2名1室 内側キャビン）
出発地： 東京・名古屋・大阪・福岡
ポイント：添乗員同行・専用バス利用・
全食事つき

秋の韓国・ソウル4日間

エネルギッシュなソウルの街は、若者たちが常に新しいものを求めて流行に敏感なところです。韓流スターたちが愛用するグッズはやはりココでも人気です。

期 間：11月15日（火）～18日（金）
料 金：ひとり 148,000 円（2名1室）
出発地： 東京・名古屋・大阪
ポイント：添乗員同行・専用バス利用

<個人旅行やグループ旅行>**いつでも出発可能・バリ島5日間**

専用車・専用ガイド・専用サポートが滞在中のご案内をするハートTOハートで人気の行き先です。バリアフリールームやご希望の方にはリフト付き車両もご用意しております。バリエステは女性・男性にも人気でお値打ちに体験できます。

料金：ひとり 138,000 円から（2名1室）

いつでも出発可能・台湾3日間

専用車・専用ガイドで滞在中のサポートをいたします。ご希望の方はリフト付き車両をご用意。台北市では地下鉄に乗って移動することも可能です。屋台街でのショッピングや食べ歩きも楽しみです。チャイナエアライン・日本航空・キャセイパシフィックの3つの航空会社から選ぶことが可能です。

料金：簡単に見積可能です。お問い合わせ下さい。

いつでも出発可能・北海道4日間

飛行機とお好きなホテルを組み合わせ、あとは移動の手段を決めるだけ。リフト付きタクシー、通常タクシー、電車、バスなどいろいろ選べてオリジナルコースを設定できます。

料金：札幌・旭川・女満別など行き先によって簡単に見積いたします。
お問い合わせ下さい。

**☆☆ JATA 旅博2011 ☆☆
チケットプレゼント！**

ことしも東京お台場・ビッグサイトにて開催されます。世界のいろんな国から楽しい情報が集まります。踊りやグルメ、スイーツなど、そして各国の観光客や航空会社からももらえるプレゼント品も見逃せません。

【開催日】 10月1日（土）～2日（日）

（入場には当日チケットの購入が必要です。）

入場チケットプレゼント！！

会場に到着なさってから 090-5118-1821 へお電話下さい。担当の松本が入場チケットをお持ちします。

■申し込み・問い合わせ■

観光庁長官登録旅行業第735号
日本旅行業協会正会員

（株）チックトラベルセンター ハートTOハート

〒460-0003 名古屋市中区錦1-20-19

名神ビル6F

TEL:052-222-7611 FAX:052-212-2778

【月～金 09:30-18:30 土日祝休】

<http://www.tictravel.co.jp>

〔担当〕松本：matsu@tictravel.co.jp

あいち旅サポートセンター



立秋というのに、秋の気配など少しも感じられない暑さですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今号は、厳しい暑さを少し通り過ぎた秋に再開する、リフト付き大型

観光バスで行く『高齢者・介添えが必要な方にやさしいバスツアー』のご案内をさせていただきます。

～あいち旅サポーターとは～

愛知県委託事業で愛知県を観光で訪れる高齢の方や介添えの必要な方に観光のお手伝いを無料でさせていただきます。スタッフの事です。



リフト付き大型観光バスで行く



高齢者・介添えが必要な方にやさしいバスツアー



- 添乗員の他にあいち旅サポーターが 1 名同行し、皆様の観光のお手伝いをいたします。
- ※車いすご利用の方に限らず、どなたでもご参加いただけます。
- ※車いすのまま固定できる席は 2 席までです(先着順)。
- ※行程の詳細などあいち旅サポートセンターへお問合せください。

!! ツアーのポイント !!

- ① トイレ、食事、見学にゆとりをもたせたコースになっています。
- ② 車いすで乗車できるリフト付き観光バスにて出発します。
- ③ 食事等で配慮が必要な場合、極力ご相談に応じます。
- ④ 募集人員は 20 名までの少人数制です。

>>>> 9月22日(木)限定 <<<<

新美南吉ゆかりの矢勝川彼岸花とセントレア滑走路見学

- 旅行代金／お一人様 7,500 円
- 最少催行人員／10 名
- 添乗員／同行
- お願い／空港管理区域内に入るため、セキュリティチェックが行われますので、身分証明書（免許証・保険証・学生証など）をご持参ください。



コース

栄テレビ塔前 ⇒ 鳴海駅前 ⇒ 新美南吉記念館 —
9:00 出発 9:50 頃出発 ボランティアガイドの
説明を聞きながら見学

— 矢勝川彼岸花 ⇒ セントレアホテル —
真っ赤に染まる彼岸花が ご昼食はランチバイキングを
矢勝川に広がります お楽しみください

セントレア内 ⇒ セントレア滑走路見学 ⇒
お買い物・散策 バスに乗ったまま普段は
入れない滑走路を見学

鳴海駅前 ⇒ 栄テレビ塔前
17:30 頃 18:20 頃到着予定
到着予定

今回ご紹介させていただいた全てのツアーには、「あいち旅サポーター」が同行しますが、ご参加の皆様全体のお世話をさせていただくもので、お一人様に専属でサポートを行うものではありません。一名様でのご参加は、ご自身で身の回りのこと（食事、トイレ、買い物）ができることが前提となります。

>>>> 10月19日(水)限定 <<<<

七宝焼きアートと清須のドラマ館・キリンピアパーク見学

- 旅行代金／お一人様 6,000 円
- 最少催行人員／10 名
- 添乗員／同行

※雨天、荒天時はコースが変更になる可能性があります。



コース

栄テレビ塔前 ⇒ 金山駅前 ⇒
8:30 出発 9:00 頃出発

あま市七宝焼アートヴィレッジ ⇒ 清洲城 —
ボランティアガイドの 下車観光
説明を聞きながら見学

— ドラマ館「江と三英傑 絆のやかた」 ⇒
ドラマ館内を自由散策・お買い物

キリンピアパーク名古屋 ⇒ 栄テレビ塔前 ⇒ 金山駅前
ご昼食・工場見学・試飲 17:00 頃到着予定 17:30 頃
到着予定

あいち旅サポートセンター

TEL (052)582-2164

FAX (052)533-6682

受付時間:9:00~18:00(土・日・祝日は休業)

<http://www.mwt.co.jp/tabisupport/>

e-mail: tabisupport@mwt.co.jp

福祉用具のリサイクル情報(11/7/29 現在)

欲しいもの、不要なものはありませんか？

リサイクルの輪を広げよう！

◆A J U 自立の家は、なごや福祉用具プラザの中で、福祉用具のリサイクル品のコーディネートと福祉用具の販売、自立生活情報の提供などを行っています。

譲りますよ！ ＊金額のないものは無料です。

★ベッド、床周り品

- ・自動体位変換装置 \ 90,000 ほぼ未使用
- ・エアーマット（アドバンハイクオリティー モルテン）
応相談 未使用

★移動用品

- ・介助用車いす（MW-S L 2 B 松永）
\ 15,000 1 週間使用
- ・歩行車（ティコブ HO03 幸和）
応相談
室内のみで 1 年使用
- ・手こぎ三輪車（前輪 12 インチ、後輪 14 インチ） 不明
- ・シルバーカー（コンビキャリー） 3 年使用
- ・シルバーカー（不明） 4 年使用
- ・ロフストランドクラッチ 不明
- ・ミクニマイティエースⅡ（支柱セット） 不明
（設置時に穴を開けない固定式リフト）

★入浴用品

- ・入浴用介護リフト（ミクニマイティエイド 80）
\ 100,000 5 年使用

★トイレ用品

- ・スカットクリーン（電動収尿器） 男性用
\ 3,000 未使用
- ・消臭液（パックス 白十字） 未使用

★その他

- ・足浴器 応相談 4 年使用
- ・吸水パンツ（男性用）L サイズ 未使用
- ・パッド専用ネットパンツ（テナフィックス）
未使用
- ・アルミ製伸縮 T 字杖 不明

譲って欲しい！

★ベッド、床周り品

- ・1、2、3 各モーターベッド
- ・折りたたみベッドかソファベッド・サイドテーブル
- ・マット（除圧、体位分散、エアー、ロホ）

★移動用品

- ・各車いす（手動、介助用、電動、簡易電動）
- ・電動三輪、四輪車・電動車いすユニット
- ・シルバーカー・マイリフティ、つるべ床走行式リフト
- ・JW1 か JW2 のバッテリー・歩行器、歩行車
- ・松葉杖・一本杖、4 点杖、ロフストランドクラッチ
- ・子供用車いす、バギー、PCW

★入浴用品

- ・入浴用車いす・入浴用チェア・バスボード・バスリフト

★その他

- ・紙おむつ・防水シート・補高便座
- ・リーチャー・くつ下エイド（くつ下を履く補助具）
- ・各クッション
（車いす用、低反発、円座、体位変換、ロホ、エアー）
- ・クッションチェア L サイズ・ロホクッションカバー
- ・各スロープ（折りたたみ、レールタイプ）
（2M、3.9M の板タイプ）
- ・段差解消機（据置型）・電動昇降椅子
- ・靴（22.5 cm～23 cm）・装具用靴（26 cm）
- ・介護テーブル・徘徊センサー・ストレッチャー
- ・車用つり革・防水カーシート、3 点とめカーシート
- ・トイレ用簡易手すり・立ち上がり用補助いす

「譲って」欲しい方、「譲りたい！」という方、
ぜひご連絡下さい。

<福祉用具についての問い合わせ>

●AJUリサイクル相談事業部●

TEL 052-851-0059 FAX 052-851-0159

ホームページでもみることができます。

<http://www.aju-cil.com>

読

者

の

こ

え

■ 愛知県名古屋市 Iさんより

5級の手帳を持っている障害者の自分です。近鉄・地下鉄を乗り継ぎ、蟹江から伏見まで通勤しています。

情報誌をインターネットで見て、この度送っていただくべく、ペンを取りました。障害者の旅情報等、お知らせ下さい。

>>>> 情報誌をお申し込みいただき、ありがとうございます。電車を乗り継いで通勤は大変ですね。少しでもお役に立てる情報や楽しみにしていただける情報誌になるよう、頑張っていきたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いします。



■ 愛知県名古屋市 Nさんより

旅行会社の宣伝と思えるページが多すぎます！読者アンケートを実施してニーズ調査したらどうですか？



>>>> いつもご購入いただき、ありがとうございます。また、貴重なご意見をありがとうございます。旅行関係以外のページがもっと充実し、皆さまに満足していただけるようなものになるよう、努力していきたいと思っています。これからも、何かお気づきの点がありましたら、是非、お知らせ下さい。

い

ろ

い

ろ

情

報

■ お詫びと訂正

前号（112号）で、誤りがございました。申し訳ございませんでした。お詫びして、訂正いたします。

p.21 在来線シミュレータの利用料金
(誤) 500 円 → (正) 100 円

訪問マッサージ・リハビリ ひかり鍼灸院 体・験・談！

ひかり鍼灸院のマッサージを受けられた方から、体験談をいただきました。ひかり鍼灸院さん（最後のページに広告掲載）は、健康保険が使える訪問マッサージ・リハビリです。

お困りの方は、お気軽にお電話を！

■ Kさん(88歳)より

介護支援専門員・保健師、河野和代子氏より紹介をうけ、鍼灸員水谷先生がひかり鍼灸院より、毎週水曜に家庭訪問して、私の腰痛マッサージを約40分ぐらい、足の先から両足を二本マッサージして戴き、次にうつぶせになり私の両足の骨盤の周囲及びその上部の腰骨の周囲を丹念にマッサージして戴き、更に上部の背骨の辺りまで丹念に指圧して戴き、5m位までしか歩けなかったのが、終わると20m～30m位まで歩けるようになり、前の自分が嘘のように身体全体が楽になり、本当に毎週水曜日先生に来て戴くのが待ち遠しい。

第20回 ウェルフェアコンサート ～ シルクロード ～

今年は、第20回を記念して、かつてNHK番組のシルクロードのテーマ曲で有名になられ、いまや世界でご活躍のシンセサイザー奏者の喜多郎さんをメインにお迎えし、ゲストには、オカリナ奏者の宗次郎さん、和太鼓グループの転輪太鼓の皆様により、自然からインスピレーションを得た魂のこもった作品の数々を演奏していただきます。

開催日：平成23年9月15日（木）

開場 18:00 / 開演 18:30

会場：愛知県芸術劇場コンサートホール

チケット：A席 5,000円（指定席）
B席 4,000円（指定席）
C席 3,000円（指定席）
車いす席 4,000円（指定席）

お申し込み、お問い合わせ：

AJU自立の家後援会事務局
名古屋市昭和区恵方町2-15
TEL 052-841-5554
FAX 052-841-2221

出演者：喜多郎（シンセサイザー奏者）
宗次郎（オカリナ奏者）
転輪太鼓（和太鼓グループ）

AJUウェルフェア

検索

長良川サービスセンター 9月・10月イベントのお知らせ

津田体育専門学校の指導により、大階段やスロープ、芝生広場等を活用した公園オリジナルのエクササイズ（健康体操）を行います。（雨天時はセンター・ハウスで実施）

日 時：9月3日(土)、17日(土)、24日(土)
10月1日(土) 11:00～12:00

会 場：長良川サービスセンター／芝生広場

参加費：無料

定 員：20 名程度

対 象：対象年齢なし（ただし、中学生以下の型は保護者の同伴が必要です。）

申込先：長良川サービスセンター

TEL 0584-54-2075

FAX 0584-54-5275

駐車場：無料（90 台） 身障スペース 3 台

住 所：〒503-0628

岐阜県海津市海津町福江字角山 1202-2

アクセス(車)：

- ①岐阜方面から 長良川右岸を南下し 約 40 分
- ②名古屋方面から 東名阪自動車道「弥富」IC より約 20 分、長島 IC より約 15 分
- ③名神高速道路「大垣」IC より国道 258 号を南下し、約 40 分

アクセス(電車)：養老鉄道石津駅より

海津市コミュニティバス「角山」下車
徒歩 7 分

バリアフリー：スロープあり

身障用トイレ：2ヶ所（オストメイトやベビートイレあり）

長良川サービスセンター

検索

第9回障害者医療問題 全国ネットワーク シンポジウム

二次障害は身体機能の低下や日常生活の大変さ等、当事者に大変な苦痛をもたらしますが、その本質的な問題は何なのでしょう？また、障害当事者にとって、その予防や治療とはどのような意味を持つのでしょうか？今回の第9回シンポジウムでは、自らが脳性マヒの車イス使用者で小児科医でもある熊谷晋一郎氏にご講演いただき、二次障害の本質に迫ります。

また「リハビリテーション医療の打ち切り制度撤廃運動」の現状を、ポリオの会の小山万里子氏に報告していただきます。

日 時：平成 23 年 9 月 19 日(月)

13:30～16:55（受付開始）

（16:30 より講師を交えた親睦会予定）
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 310 号室

交通機関：小田急線 参宮橋駅下車徒歩 7 分
京王バス 新宿駅西口（16 番）または
渋谷駅西口（14 番）より
代々木 5 丁目下車

参加費：1,000 円

講 師：熊谷晋一郎氏

東京大学先端科学技術研究センター
特任講師（小児科医）

主 催：障害者医療問題全国ネットワーク
（二次障害情報ネット）

後 援：日本小児整形外科学会、社団法人日本理学療法士協会、財団法人日本障害者リハビリテーション協会、財団法人世田谷区保健センター、世田谷区立総合福祉センターさくらぼと、社会福祉法人東京都社会福祉協議会

問い合わせ先：

〒156-0043

東京都世田谷区松原 6-39-12

カーサイズミダ 101

TEL 03-3327-0971

FAX 03-3327-0972

E-MAIL: shi_un_ryouiki-ji@w7.dion.ne.jp

特定非営利活動法人自立の家内障害者医療問題全国ネットワーク（二次障害情報ネット） 菊野まで

二次障害情報ネット

検索

第38回 国際福祉機器展 H.C.R.2011

ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会。その他、国際シンポジウムや福祉のスキルアップ講座も開催されます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

開催日：平成 23 年 10 月 5 日(水)～7 日(金)

会 場：東京ビッグサイト東展示ホール(有明)
東京都江東区有明 3-21-1

TEL 03-5530-1111

アクセス：

りんかい線→国際展示場駅より徒歩約 7 分

ゆりかもめ→国際展示場正門駅より徒歩約 3 分

水上バス→有明客船ターミナルより徒歩約 2 分

HCR2011

検索



第27回 名古屋シティハンディマラソン



名古屋の都心テレビ塔の周りを、日ごろスポーツをする機会に恵まれない人、重い障害をもつ人たちとボランティア、およそ1,000名の仲間たちがマラソンを通して相互理解と友情を深めるとともに『完全参加と平等』の実現に向け市民の声援を受けながら思い切り走ります。

第1回より毎年、東南アジアのタイ・フィリピン・バングラディシュと韓国より障害者を招待し、国際交流を図ってきました。

開催日：平成23年10月9日（日）

会場：久屋大通公園 雨天決行

主催：名古屋市、害者と市民のつどい拡大実行委員会

支援：中警察署

特別協賛：タイハウグループ

後援：愛知県、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会、名古屋金鯱レーシングクラブ、アジア障害者支援プロジェクト

協力：NPO法人久屋大通コンソーシアム

種目：A＝車いす使用者…1周・6周（自走）

B＝介助を必要とする車いす使用者と電動車いす使用者…1周（伴走者付）

C＝A・B以外の障害者及び一般、子供…1周

D＝一般…4周

★時間内にゴールできない場合、途中で競技を打ち切る事があります。

参加資格：①ハンディキャップのある人及び共にマラソンに参加しようとする人

②満7歳以上で、自分の健康管理に責任の持てる人

③主催者が招待した人

参加費：無 料

申込期間：平成23年8月22日（月）

～9月22日（木） 当日消印有効

申込先：①AJUのホームページから

<http://www.aju-cil.com>

②申込用紙記入の上、郵送かAJUへ持参

問い合わせ先：

名古屋シティハンディマラソン事務局

愛知県重度障害者の生活をよくする会

AJU車いすセンター

TEL 052-851-5240

FAX 052-851-5241

E-mail yokusuru@aju-cil.com

※日祝日は除く



◆ボランティア募集◆

当日、マラソンのお手伝いをいただける方を大募集しています。

お手伝い内容は、次のようです。

- ・競技中の警備（車道に立ち、応援しながら警備していただきます）
- ・表彰者の付き添い
- ・受付・案内
- ・参加者の伴走

お申し込み・お問い合わせは

AJU自立の家 サマリアハウス

大道寺（だいどうじ）まで

TEL 052-841-5554

FAX 052-841-2221

E-mail yokusuru@aju-cil.com

AJUのHPからも申し込むことができます。

ホームページ <http://www.aju-cil.com>



AJUマラソン

検索

8th 2011 多治見修道院ワインフェスタ



2003年よりピア名古屋の仲間たちが葡萄を作り、ワイン造りのお手伝いを行っています。この多治見修道院ワインフェスタは、一年を通して行われている作業やワイン造りを行いながら、自立に向かっていく成果を発表する場として、毎年11月、多治見修道院ワインをはじめ、世界の修道院ワインを味わいながら、多彩なゲストにご協力をいただき、様々なイベントとともに開催するものです。

ワインフェスタ開催中のワイン販売収益は、ピア名古屋、多治見修道院で働いている障害をもつ人の工賃として支払われます。

ワインフェスタ開催中のワイン販売収益は、ピア名古屋、多治見修道院で働いている障害をもつ人の工賃として支払われます。

日時：平成23年11月3日（木）

開場 9:30～

時間 10:00～14:30

会場：多治見修道院（雨天決行）

参加費：前売券 2,500円

当日券 3,000円 未成年 入場無料

ワイン1本とワイングラス付き

※未成年者と運転される方の飲酒は堅くお断り致します。

問合せ先：AJU自立の家 ピア名古屋

TEL 052-841-9994

FAX 052-852-4810

E-mail: wine@aju-cil.com

AJUワインフェスタ

検索

第 15 回全国交流集会in大阪

全国の皆さま、大阪は上六（うえろく）の地にお越しやす！11 月は、全国の多様な実践を出し合いながら、「ごちゃまぜ」の味を全国の仲間に味わっていただき、ついでに「ごちゃまぜの力の強さ」を各地の仲間に持ち帰っていただき、それぞれがより広いネットワークを作って「分離別学」や「医療モデル」に固執する流れとしっかりと対決し得る陣形を作り上げていきましょう。

論議は活発に、団結は強固に！これが大阪のポリシーです。3年後の「障害者基本法の見直し」を初め、5年後、10年後を見据えた粘り強く緻密な戦略を立てて取り組んでいきましょう。そのためにも多くの皆様のご参加と熱い討論を期待しています。

日 程：11 月 19 日（土）～11 月 20 日（日）
スケジュール：

■ 1 日目 11 月 19 日（土）

12:00 受付開始

13:00～13:30 全体会（開会セレモニー）

13:30～14:30 劇団金太郎飴による記念公演
「ちいさいタネ」

15:00 ～ 17:00 分科会

◎第 1 分科会 障害児が学校に入るまで、入るとき（就学前後）

◎第 2 分科会 学校とどうつきあっていくか（義務教育段階）

◎第 3 分科会 高校へ行きたい（高校）

◎第 4 分科会 地域で生きる（卒業後）

◎第 5 分科会 原則統合をめざして（制度・政策）

18:00 ～ 20:00 交流会

■ 2 日目 11 月 20 日（日）

9:30～12:00 分科会

12:15～13:00 全体会（分科会報告・まとめ）

※スケジュールは、変更になる場合もあります。

※受付は 8 F で行います。

※保育あり（要予約）。

※実行委員会では、宿泊の対応は致しません。会場は上本町ですが、天王寺・難波に近く、宿泊施設は多くありますので、各自でご対応をお願いします。

参加費：3,000 円（資料代・高校生以下は無料）

1 日参加 2,000 円

交流会費 5,000 円（子ども 2500 円）

参加申し込み：参加申込書に必要項目を記入の上、郵送・ファックスで、大阪現地実行委員会（下記に記載）にお送りください。

（参加申込書は全国連のホームページ

<http://www.zenkokuren.com/> にて、ダウンロード頂くか、下記連絡先までお問い合わせください。）

申込締切日：10 月 28 日まで

※当日受付も致しますが、準備の都合上、事前の

お申し込みをお願いします。

※交流会参加・保育希望の方は事前のお申し込みが必要です。

会 場：大阪府教育会館 たかつガーデン

〒543-0021

大阪市天王寺区東高津町 7 番 11 号

TEL 06-6768-3911

FAX 06-6768-3170

アクセス（鉄道）

《新大阪駅より》

①地下鉄御堂筋線 なんば（乗り換え）地下鉄千日前線 谷町九丁目駅下車 徒歩 10 分

②JR 東海道線 大阪（乗り換え）JR 環状線 鶴橋下車徒歩 15 分

《伊丹空港より》

空港リムジンバス 30 分～近鉄上本町（シェラトン都ホテル）より徒歩 5 分

参加申込書の送付先、申込書のご要望、お問い合わせ等の連絡先：

全国交流集会 in おおさか現地実行委員会
（担当：西尾・片岡）

〒543-0072

大阪市天王寺区生玉前町 5-33

大阪府障害者社会参加促進センター 障大連内

TEL 06-6779-8126

FAX 06-6779-8109

ホームページ：npo-oil@mbd.nifty.com

全国交流集会 in おおさか

検索

車いすでGo！ ぶどう狩り

■愛知県■

【岡崎駒立ヤマサ園】

所在地：愛知県岡崎市駒立町カワテ 56.57

開園時間：9:00～17:00

料 金：

《スチューベン狩り》（9/1～10/10 頃）

大人 ¥1,600 [お土産付] ¥1,200 [お土産無]

小人 ¥900

《巨峰狩り》（8/20～10/10）

大人 ¥1,600 小人：¥1,100

※団体料金は大人 200 円引、小学生以下 100 円引

定休日： シーズン中は無休

アクセス（電車）：名鉄東岡崎駅からタクシー

アクセス（車）：豊田東インターより 20 分

バリアフリー：車いすトイレあり

駐車場：あり／50 台（無料：大型バスも可）

予 約：不要（バーベキューのみ必要）

問い合わせ先：ヤマサ園

TEL 0564-45-5566

ヤマサ園

検索

【マル京農園】

所在地：愛知県岡崎市駒立町字ノンタチ45

料 金：

《スチューベン狩り》（9/1～10/10頃）
大人\1,600〔お土産付〕\1,200〔お土産無〕
小人¥900 幼児 \600

《巨峰狩り》（8/20～10/10）
大人 \1,600 小人 \1,100 幼児 ¥800

営業時間：9：30～16：30

定休日：シーズン中は無休

アクセス（電車）：

名鉄東岡崎駅より大樹寺バスターミナル下車
タクシーに乗って20分

アクセス（車）：

豊田東インターより国道248号線を蒲郡方面へ
3キロ。信号西藏前2を左折。あとは直進6キロ。

駐車場：あり／80台（無料：大型バスも可）

バリアフリー：車いす用設備あり

予 約：不要（20名以上の団体様は事前予約が必要）

問い合わせ先：マル京農園

愛知県岡崎市駒立町字ノンタチ45番
TEL 0564-45-7323

マル京農園

検索

【寿々園グレイプガーデン】

所在地：愛知県岡崎市駒立町字ナカサラタ24

営業期間 8/5～10月上旬

開園時間：9：30～17：00

料 金：

《巨峰・紅富士・ハニーシードレス・スチューベン・白峰他》（8/15～10/上旬）
大人：\1,500〔お土産付〕 小学生：¥1,000
幼児 \700

※団体料金は大人200円引、小学生以下100円引

定休日：シーズン中は無休

アクセス（車）：

東名高速道路 豊田東ICより国道248号線
を南下、西藏前2丁目交差点を左折し7km進
んだ右側

駐車場：あり／250台（無料：大型バスも可）

バリアフリー：あり

予約：不要（20名以上の団体様は事前予約が必要）

問い合わせ先：寿々園グレイプガーデン

TEL 0564-45-5753

寿々園グレイプガーデン

検索

■三重県■

【青蓮寺湖観光村ぶどう組合】

所在地：三重県名張市青蓮寺街1521-5

営業期間 7月20日～10月31日

開園時間：9：00～17：00

料 金：

《普通ブドウ狩り》

スチューベン（9月）、
マスカットベリーA（～10月）

大人：\1,200 小学生：¥900 幼児：\600
大人（お土産付）：\1,600 小学生：¥1,300

《巨峰狩り・紅富士狩り》（9月）

大人：\1,700 小学生：¥1,300 幼児 \900
大人：\2,00（お土産付） 小学生：¥1,900

※団体料金は大人／小学生／幼児100円引

定休日：シーズン中は無休

バリアフリー：車いすトイレあり

アクセス（電車・バス）：

近鉄名張駅よりバス10分
百合ヶ丘下車、徒歩2分

アクセス（車）：

名古屋方面より上野ICより
国道369号線～165号線30分
大阪方面より針ICより
国道368号線～165号線30分

駐車場：各園に無料駐車場あり

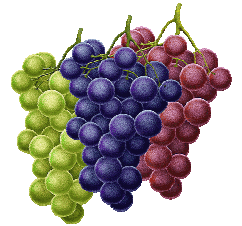
予 約：不要（15名以上の団体様は事前予約が必要）

問い合わせ先：青蓮寺湖観光村ぶどう組合

TEL 0595-63-7000

青蓮寺湖観光村ぶどう組合

検索



あなたの町の歯医者さん

NPO法人くれよんBOXが、地域で生活する上でもっとも身近なもののひとつである歯科医院の情報を、冊子とホームページで提供しています。



名古屋市東部55ヶ所の歯科医院のバリアフリー状況や、車いすから治療台への乗り移りなどの介助の状況など、車いす使用者が通院する上で、前もって知っておきたい情報が掲載されています。

くれよんBOX

検索

東日本大震災被災障害者支援の募金及び活動について

情報誌 111 号で「被災障害者支援のための募金」をお願いしたところ、多くの読者の皆さまから
支援金 215,000 円(6月末現在)をお寄せいただきました。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

皆さまからお寄せいただいた支援金は、被災した障害者の支援活動(支援物品、物資運搬関係、避難
者支援費など)に使わせていただいております。簡単ですが、災害支援活動を報告させていただきます。

(2011 年3～6月の支援活動)

	期 間	おもな訪問先	支援内容
1 陣	3 月 12～19 日	名取市、仙台市他	要援護者の介助、ヒアリング調査
2 陣	3 月 21～26 日	名取市、塩竈市、東松島市役所	被災地の障害者団体の後方支援
3 陣	4 月 7～9 日	仙台・太白区ありのまま舎、多賀城市、塩竈市	避難所間仕切りセット納入・設置
4 陣	4 月 11～16 日	仙台・太白区ありのまま舎、宮古市役所、市内 避難所、岩手・山田町役場訪問他	中日新聞の支援物資を呼びかけにより大量の物資を 10tトラックで届ける、同時に募金活動を開始
5 陣	4 月 18～19 日	宮城・亘理町、災害対策本部、角田市・特別 養護老人ホーム	ユニー様よりご提供の物資を被災地へ
6 陣	4 月 25～26 日	仙台・青葉区WFT東日本大震災NPOネットワ ーク会議	仮設住宅用・日常生活用品(運転は東別院教化事業 部様ご協力)
7 陣	5 月 2～4 日	盛岡・被災地障がい者センターいわて、陸前高田 市内避難所10数箇所他	支援物品運搬、ニーズ調査、間仕切り使用状況調査
8 陣	5 月 12～16 日	宮城・南三陸町、東松島市、郡山市、三条市 内避難所	避難所間仕切りセット納入・設置
9 陣	5 月 30 日～6 月 7 日	宮城・亘理町・佐藤記念体育館→被災地障が い者支援センターいわて	Tシャツ、タオルケット、バスタオル等を届けたのち、支援セ ンターで活動支援
10 陣	5 月 30 日～6 月 9 日	宮城・柴田町	自立の家へ避難者の一時帰郷、役所手続き支援
11 陣	6 月 6～8 日	柏崎市役所、千葉県・鴨川青年の家他	被災者の受入状況等聞き取り調査
12 陣	6 月 9～10 日	宮城・亘理町、いわき市	亘理町と福島県仮設住宅 1000 世帯用、陶器等を届けた。 トヨタ自動車様様車借用ご支援
13 陣	6 月 12～18 日	陸前高田市、釜石市、岩手・大槌町	避難所、仮設住宅の訪問調査
長期 派遣	3 月 12 日～6 月末 5 月 2 日～6 月末	名取市、仙台市障害者支援センター →「被災地障がい者センターいわて」遠野拠点を立上げ活動中 仙台教区サポートセンター	

AJU自立の家では、現在も被災地へスタッフを派遣し、支援活動を継続しています。

医療相談室

長年、診療機関で障害がある仲間の医療ケアに携わっ
てみえた「リハビリテーション医の万歳登茂
子先生」のご協力で開催。

《相談日》9月10日、17日

10月1日、15日

いずれも土曜日、予約制、30 分程度

時間は要相談

《対 象》障害がある人

《費 用》無料

《受 付》自立生活情報センター

TEL 052-841-6677

FAX 052-841-6622

E-mail johoc@aju-cil.com

《場 所》名古屋市昭和区恵方町 2-15

(社福)AJU 自立の家 サマリアハウス内相談室



やさしい住まいの支援ネット

障害当事者、福祉、医療、建築関係者が有志で開設
し、住宅の改造などの相談に対応。

《相談日》9月3日、17日

10月1日、15日

いずれも土曜日、午後1時半から

《費 用》無料

《受 付》サマリアハウス 浅井

TEL 052-841-5554

FAX 052-841-2221

E-mail sumai-sien@freeml.com

URL http://sumai-sien.com/

《場 所》名古屋市昭和区恵方町 2-15

(社福)AJU 自立の家 サマリアハウス内



訪問マッサージ・リハビリ

自宅療養・歩行困難の方が対象です。寝たきりゼロのためにご利用下さい。

健康保険が使用できます
(医師の同意が必要)



(株)東洋医療グループ

ひかり鍼灸院

緑区鳴海町字大清水 69-1029

☎ 0120-56-0348

<http://www.hkarishinkyu.com>

お気軽にご相談下さい。担当／牧野

車いすに乗ったまま「行きたい!」をかなえる



介護タクシー ところ

でんわ 090-9184-5515

名古屋市千種区新池町2-22-8

tel/fax 052-782-3172

編集後記

東日本大震災からはや5ヵ月。震災の爪痕はまだまだ残っているものの、障害者用仮設住宅も建ち始め、復興のスピードも増してきたようです。

しかし、細かく見ると、ヘルパーも被災しているのもまだまだ足りていないとか、日中生活をする場も被災したとか…。たとえ場所があっても、そこで作業した品物の販売先も被災しているので、品物は売れず収入も無く、そこを維持するのが困難な状況になってきていることなどが伝わってきています。ましてや、福島第一原発周辺では、復旧するメドすら立っていないという状況が続いています。

AJU福祉情報誌では、今後も被災した障害者の状況や支援状況を伝えていこうと思っています。

(ナベ)



情報募集中!

障害福祉制度への意見、町で見つけたアクセシブルな穴場、あれ?ちょっとおかしいな?と思う車いすトイレの造り、親切なお店、グルメなお店、みんなに聞いて欲しい事件などなど、皆さんからの情報をお待ちしています。

ぜひぜひ、編集部までご連絡下さい

■編集部

TEL 052-841-9888

FAX 052-841-1015

E-mail f-joho@aju-cil.com

お待ちしております



隔月発行

年間購読料: 1,500 円

振込先(郵便局にて振込)

加入者名: 福祉情報誌発行委員会

口座番号: 00890-0-90573

お問い合わせ・購読中止のご連絡は、こちらまで

TEL 052-841-9888

FAX 052-841-1015

E-mail f-joho@aju-cil.com